

TOKUYA TIMES



とくや タイムズ

豊橋市議会初登壇

Summer, 2007 vol.1



THE TOKUYA TIMES by TOKUYA ITO

第1号発行のご挨拶

多くの皆様のご支援ご理解を頂戴し、私こと伊藤篤哉は、4月22日の豊橋市議会議員選挙を経て、豊橋市議会の一員となることができました。

今後は、豊かな郷土を築くために、議会を目指した情熱と初心を忘れることなく、議員の本分を努めて参ります。

そこで、活動報告書として「とくやタイムズ」を定期的に発行して参ります。また、今号は、私にとっての初議会をお伝えします。

伊藤 篤哉

こども関連施設等(こども未来館)について。

こども関連施設等についての現状

こども関連施設は「こども未来館」(愛称:ここにこ)に決定しました。現在、平成20年7月開館を目指し建築等進行中です。

平成14年度の基本構想は以下のとおり;

基本理念

こどもたちの健やかな成長を支援する
こどもとまちと市民を一つにつなぐ
豊かな文化の担い手を育む

施設のコンセプト

世代をつなぎ、まちをつなぎ、時代をつなぐ
「ひと」「まち」「みらい」の創造空間

平成15年度の基本計画は以下の通り;

基本構想の実現に向けた4つの機能

子育て機能
体験・発見機能
集い機能
発表・表現機能

一般質問 1/1

①こども未来館を成功させるためには、施設の絶えざる魅力向上が必須であると考え、以下の要点を網羅した質問をしました。

- 地域の特性【産業】【文化】を活かすこと
- 立地を活かしボランティアを活用すること
- 飽きの来ない、多彩な、鮮度の高いプログラム
- 豊橋、東三河「こども未来館」ならではの内容
- 多くの人々が繰り返し、来訪したくなること
- 「単なる児童館」から脱皮
- 「こどもを中心とした多世代交流施設」となること

②更に、施設の外に広がる「本物のまち」との連携・協働が必須であると考え、以下の要点を網羅した質問をしました。

- 「本物のまち」にいる専門家(プロ)との協働
- 商店街、地域住民との企画もふくめた協働
- 施設と「本物のまち」との回遊性をよくする方法
- 商店街、地域住民との相互理解の方法
- 地域の文化との協働

※ 「とよはしまちなかスロウタウン映画祭」

※ 三河三座(能・文楽・歌舞伎)が活動開始

企画部長(答弁要旨)

来年7月オープンに向け、人員体制を整え検討中。

「体験・発見ゾーン」では、「まち空間」「ものづくり工房」「キッチン工房」など多様な企画に対応できる空間を用意し、豊橋のまちや歴史・文化・産業など、都市の特色を活かした、また固定的ではなく、プログラムに応じて柔軟に様々な体験ができるよう計画。

「集いゾーン」は「ふれあい交流のエリア」として、演奏会や映画会、講座・研修会など、子どもから大人まで多世代の方々が関心を持ち、触れ合えるプログラムを企画・検討中。

「子育てゾーン」は、保育士や保健士による相談事業や、子育て中の親子が随時そこに来て、親子で楽しみ、交流する場にします。

コミュニティ活動への夜間までの諸室貸し出しや、学校の授業としての活用、子どもたちの作品発表の場など、多世代の方々がそれぞれの目的に応じ活用し交流できるよう準備中。施設の周辺地域との連携は、「市民との協働による企画・運営＝その実践の場」をめざしています。地元商店街をはじめ、地域住民の深いご理解、様々な人々の協力なくしては、成り立ちません。施設が中心市街地にあるという特性を活かし、施設とまちが融合できるように、今後企画の内容や今後の運営についても、周辺の商店街や地域の方々にも相談し、アイデアも頂き、ご理解を深めて頂きながら取組んで参りたいと考えています。

【5月15日(火) 臨時会】

豊橋市議会本会議場での初議会は臨時会として経験、当日は議長選出でした。

【6月5日(火) 一般質問】

伊藤篤哉、1期目初めての一般質問に登壇しました。

豊橋市議会の議場での規則の説明を受けたのは5月29日、ためらいを払拭して機会を活かすことを決めました。

※一般質問とは、市長ほか執行部に対して、市政全般にわたり質問・要望を述べることがあります。質問回数は3回までとし、事前に質問の趣旨を知らせることとしており、最後に自分の思いを述べることが出来ます。

【6月7日(木) 総務委員会】

行政を縦割りに大きく分けた常任委員会には、「総務委員会」「環境経済委員会」「福祉教育委員会」「建設消防委員会」の4委員会があります。本年度は総務委員会に所属、総務委員会は総務部、財務部、企画部などの所轄に属する事項を担当します。

委員会質疑とは提出された議案に対して、疑問や不明確な点を問う発言を言います。

質疑回数は3回までとし、最後に自分の思いを述べることが出来ます。

【6月11日(月) 一般会計予算特別委員会】

一般会計予算特別委員会として提出された議案に対して、疑問や不明確な点を問う発言を行います。

豊橋市議会定例会は6月、9月、12月、3月に開催されます。



7月3日現在
こども未来館
会議所8階から



予定図
2008年7月
オープン予定!

今からが
勝負!

一般質問 1/2 豊橋のまち・歴史・文化・産業など、都市の特色を活かした奥深いプログラムを期待し、さらに詳しく質問しました。

- 日本を代表する出荷額を誇る農産物生産地
 - 野菜生産(伝統・流行・季節・品種・市場・地球温暖化)
 - 農・工・商・水・林・観光業の伝統とハイテクノロジーや新しい取り組み
 - 食文化の歴史(例)三河湾の漁業と水産品加工業
 - 「まち空間」で買う。「キッチン工房」で調理。「食育」で学ぶ
 - 地域社会に残る行事食・地域食・伝統食などの伝承
 - 日本の食育の先駆者は豊橋市出身「村井弦齋」
 - 時代のテーマ「食育」【キッチン工房/展示室/研修室】
- ※子どものみならず高校生大人を含め、地域の特性を生かした食育講座の開催が健康への関心とともに期待されます。

企画部長(答弁要旨)

- 固定的な展示中心ではなく、交流・体験・遊びを発見できる「空間」に
- ボランティア、技能を持つ方、地域の方と共に学び育ち協働を深める場
- 年を重ねるごとに魅力を増し、充実させたい
- まちとの融合を図るためには、地域も積極的に取り組んで頂くことが大切
- 協力・連携を深めながら、利用者の視点開業に向け準備を進めたい

こども未来館へのおもい

既に「こども未来館」は来年7月のオープンを目指して工事も急ピッチで進んでいます。今は是が非でも成功させることこそが大切です。まちの成り立ちには「人の集まる場所に市」という不易の言葉があります。人が集まる施設にして下さい。それは多世代に渡る集客増加は周辺への波及効果として現れ、結果として中心市街地の活性化に繋がります！入場料を取るのであれば「売るのは価格、買うのは価値」です。入場料を低く設定することよりも価値を、内容を高めてください。単なる展示のみに終わらず、施設では日本古来の、とりわけ郷土東三河の、歴史・文化・古典から現代までが楽しく学べることとし、今求められている国際社会への第一歩を踏み出すための国際人としての教養(アイデンティティ)を養える場にして欲しい。さらに他を思いやる心を養う「心の教育」ができるような内容も期待します。また、豊橋を始めとした東三河地方の産品を中心とした、こどもとともに多世代が楽しめる「市」「まつり」「イベント」の開催など、地域に根ざした集いの企画を期待します。最後に、仕事体験ブースは、若者の定職率が伸び悩む現代を鑑み、こどもによるうわべの仕事体験ブースではなく、こどもたちひとりひとりが好きな仕事を発見でき夢中になれる奥深い内容を備えた、就労や職業への意識を喚起できる施設たることを真に期待します。



一般質問 2/1 豊橋まつりにおける「ええじゃないか」の取り組みについて。

豊橋まつりは、豊橋市制100周年に、江戸末期に本市で発祥した「ええじゃないか」を祭のテーマに掲げ、市民全員参加型の市民祭から、市民全員参加を土台とはするが集客型の祭への転換しました。具体的には豊橋まつり振興会での決定との事ですが、今年は「ええじゃないか」発祥140周年。「ええじゃないか」をテーマとした豊橋まつりに対し、この好機を市はどのように取り組みますか。

産業部長(答弁要旨)

★「ええじゃないか」は、本市発祥全国に広まった認知度の高い社会現象で、名前を全国にPRするのに有効です。
★豊橋まつりは市を挙げての大イベント、対外的な発信の場であり、市も振興会の一員として「ええじゃないか」の普及に積極的に取り組み、誘客増につなげたいと考えます。★市独自の取り組みとして「ええじゃないか発祥の地」をキャッチコピーとするロゴマークを作成し、バッジや名刺にプリント活用し全国発信に努めています。

一般質問 2/2 市民および他都市からの来訪者はどのように評価し、今後何を求め、期待しているのか、お聞かせください。

産業部長(答弁要旨)

★市外からの参加者を含めた参加者全員、および関係機関へアンケートを行い、様々な意見、要望、提案などをいただきました。★結果は、「ええじゃないか」を通して参加者が一体になれた、「まつりに統一感が生まれた」という意見がある一方で、なぜ豊橋まつりで「ええじゃないか」なのか？とかそもそも「ええじゃないか」とは何なのか？という意見がありました。★ほとんどの方が自由意見欄へ多くの書き込みをされました。統一テーマ「ええじゃないか」が掲げられたことによる新たな豊橋まつりへの期待感や、積極的に参加しようという意気込みの湧き上がりを受け止めています。

豊橋まつりにおける「ええじゃないか」へのおもい

- 「マツケン」の「ええじゃないか」1、2のリリースと豊橋まつりでの発表。
 - 宗田理先生原作の「早咲きの花」の映画化。高校生が「ええじゃないか」を現代に復活させるシーンを加えた上記DVDが7月14日発売予定。
 - 「ええじゃないか」を豊橋における「まつり」の冠とする重要な年では!!!
 - よそ者、若者が活躍できる祭りであって欲しい。伝統、格式など「閉塞感を打ち破る」祭であって欲しい。市民のみならず、当地に新しく住んだもの、一時的に仕事や学業の都合で住んでいる者、外国から来た者を心底歓迎する祭であって欲しい。「豊橋祭り」にあわせて、豊橋ゆかりの人々が集う、帰ってくるようになって欲しい。
- ひろがり、つながる、未来 豊橋の新伝統になることを望みます。

一般会計予算特別委員会「ラティーノ・ノドジマン」について

(経過と理念) 愛知万博では「一市町村一國フレンドシップ事業」が開催されました。豊橋市は6カ国のホームシティとなり、相互交流を深めました。愛知万博成功の博覧会収益より、本年より4500万円が国際交流事業費を目的として豊橋市へ支給される、その初事業が「ラティーノ・ノドジマン」。ラテン系の人々が日本の歌を歌唱する「のど自慢」番組として制作、中南米はじめラテン系の人々が多く住む豊橋の地域特性を活かした企画です。

質疑① 番組制作の内容について、本市はどの様にかかわりますか。

また、事業費が230万円の内訳を教えてください。

【文化国際交流課課長】100周年記念事業の一つとして「のど自慢」を実施。今回も、番組の制作や収録、放送、舞台上の演出などをNHKが、そのほかの業務を本市が担当し、広報宣伝などは両者で行います。主な事業費の内訳は、会場内での受付、案内誘導、出演者の管理などの運営業務と駐車場の誘導・警備業務などの委託料、アイプラザ豊橋など会場使用料です。

質疑② 出演者募集と収録会場を埋める「告知」「広報」「誘客」についての考えと、番組の「告知」「広報」について。

【文化国際交流課課長】募集告知広報は、報道機関各社への依頼、ポルトガル語版を含めた広報とよはし、NHK名古屋放送局や豊橋市のホームページなど。応募用紙は、東海北陸の各放送局、浜松支局を始め、近隣の外国人集住都市である、浜松市、豊田市、美濃加茂市などにも窓口を設置予定。更に、ロコモもあります。番組は、NHKの放映日が決まり次第広報をします。

質疑③ 9月開催のブラジルデイより、当日紹介できる企画は。

【文化国際交流課課長】ブラジル移民100年の歴史や本市在住のブラジル人の様子などをパネルで展示。豊橋ブラジル協会と調整し会場スペースに合わせた展示します。また、本市には、広報とよはし外国語版、母子健康手帳、ゴミガイドブックなど、外国人向けの様々なパンフレットやリーフレットなどありますので、多文化共生の取り組みの一つとして紹介コーナーの設置を考えます。

「ラティーノ・ノドジマン」へのおもい

豊橋発！日本初！「ラティーノ・ノドジマン」が本年9月16日にアイプラザで開催されます。人、国、暮らしを紹介し、歌で繋ぐ文化交流事業の「ラティーノ・ノドジマン」。戦争の絶えない現代世界を考えると、ぜひとも成功させたいイベントです。また来年はブラジル移民開始100周年、さらに今年には「ええじゃないか」発祥140周年。「ええじゃないか」発祥の地 豊橋で新しい風を起こせたら素敵です。さて、多文化共生という言葉について。この言葉は一つの国に複数の文化が存在していることをあらわします。多民族国家アメリカ合衆国の音楽JAZZには「フュージョン(融合)」という言葉があります。共生からフュージョン・融合を考える、そんな時代の予兆を期待しながら、本企画の成功を祈ります。



あ！マルシアも来るんだ・・・

編集後記
 ついつい硬い紙面になりました。
 次回はもっと楽しい
 とくやタイムズを目指します！

発行：伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-70
 TEL：0532-57-4192
 FAX：0532-56-5521
 bbto@mx1.tees.ne.jp